

公益財団法人自頼奨学財団について

じらいしょうがくざいだん

【設立趣意書】

私の父は 40 年近い間、郷里米沢市にある県立米沢興譲館中学校（米沢興譲館高等学校の前身）の教員でありました。家には資産というほどのものはありませんでしたので、乏しい俸給で生活し、5 人の子の教育には大層苦勞いたしました。

私は、結局、父母の慈愛と、ある篤志家の育英資金とによって大学を卒業することができましたが、自分の生活に多少でも余裕ができたなら、経済的に恵まれない人々にできるだけのことをして、父母の慈愛に報いるとともに、自分が受けた育英資金を社会にお返ししたいと念願しておりました。そこで今日、僅かではありますが、これを拠出して奨学財団をつくり、宿志を遂げようとする次第であります。

この奨学財団からの給与の対象は、旧米沢藩に相当する米沢市、長井市及び東西置賜郡内各町村在住者の子弟であって、山形県立米沢興譲館高等学校に在学する生徒に限りました。これは、父を記念する意味もありますが、その上に、僅かな資金ですから集中的に運用して効率を高めようとするためでもあります。

なお財団の名称について一言しますと、父は不精者で頭髪に油をつけませんでしたので午後になると頭髪はいつもボウボウと逆立したそうです。そのために「児雷也」というあだ名をもらっていました。そして、私が中学に通うようになった時は、「児雷子」と呼ばれました。父は父兄からはもちろんのこと、生徒からも信頼されていたのでしょう、「児雷さま」と呼ばれるのが常で、そこには親愛の情がこもっていたようでした。かようなわけで、「じらい」という呼称は、私たち父子にとっても、また郷里の人々にとっても、なつかしいものでありますから、「自頼」という字をあてて、この呼称を記念しようと考えたわけであります。もっとも、とくに「自頼」という字をあてましたことには、他人の世話になろうとする者に対し、自立心の必要を警告しようとする趣旨も含まれていないわけではありません。



設立者 我妻 榮

【財団の目的】

学術優秀、品行方正、身体強健でありながら、経済的理由により就学が困難な者に対し、奨学援護を行い、もって社会有用の人材育成に寄与すること、ならびに学校図書館設備を助成することを目的とする。

【沿革】

- 昭和 41(1966)年 1 月 我妻榮先生、奨学金として 600 万円寄贈
- 昭和 41(1966)年 8 月 我妻榮先生寄附の奨学基金を基に財団法人自頼奨学財団を設立
- 平成 23(2011)年 8 月 公益財団法人の認定

【組織】

代表理事（1名）
理事（5名以上7名以内）
監事（2名）
評議員（7名以上10名以内）

理事会
評議員会
評議員選定委員会
（評議員、監事、事務局員各1名、外部委員2名）
奨学生選考委員会

【事業概要】（令和7年度）

- 4月 自頼奨学生募集 新規募集
○対象：山形県立米沢興讓館高等学校に在学する生徒
○募集人員：15名
○給付額：年額18万円（給付につき、返還不要）
5月 第1回理事会 評議員会 自頼奨学生選考委員会
6月 「まがき文庫」図書費贈呈（於：米沢市立興讓小学校）
7月 自頼奨学生証書交付式、奨学生に奨学金給付
○「我妻榮先生に学ぶ会」の開催（於：我妻榮記念館）
10月 「自頼文庫」図書費贈呈
2月 第2回理事会
3月 卒業生指導

【自頼奨学生】

昭和41年以来 388名（令和6年現在）

【ご支援のお願い】

「自頼奨学財団」は、民法学の権威である我妻榮先生の文化勲章受章を記念して設立され、その後も先生の意志を受け継ぎ、事業に賛同いただいた方々からのご支援を得て運営しております。経済的理由により就学が困難な在校生に対して奨学金を給付する事業を主とし、社会の有為な人材の育成に寄与することを目的とした財団です。

この給付奨学金は、主に基本財産の運用益を充ててきましたが、近年、低金利のために給付に充当できる原資の確保が非常に厳しい状況となっております。

つきましては、趣旨をご理解いただくとともに、ご支援賜りたくお願い申し上げます。

また、財団は寄附金の税制上の優遇措置を受けられる公益法人であり、確定申告の際、当財団から発行される寄附金受領証明書を添付しますと、所得税、法人税の優遇措置を受けることができます。

【郵便振替によるご支援】

郵便局（ゆうちょ銀行）備え付けの振替用紙に、次の事項をご記入のうえお振り込みください。

口座番号：02290-3-134802

口座名義：公益財団法人自頼奨学財団

【活動写真など】



興讓館高校図書館我妻先生胸像



我妻榮先生に学ぶ会 我妻榮記念館長



我妻榮先生に学ぶ会 清掃活動



興讓館高校 自頼文庫

興讓小学校 まがき文庫

